

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	急性期病院における医療介護連携推進委員会の取り組み ～退院支援の枠組みを越えて～
演者名	千野正之、小松裕和、小林有菜
所属	佐久総合病院地域ケア科

目的

地域包括ケアシステムを実現するためには、医療と介護が一体となり地域課題に取り組むことが重要である。回復期リハビリ病棟や療養型病棟では、医療・介護連携の必要性が認識されているが、急性期病院においてはその重要性が浸透しておらず、円滑な連携関係は構築されていない。我々は急性期病院における医療・介護間の円滑な連携体制推進を目指し、佐久総合病院において医療介護連携推進委員会を設立して取り組みを行った。

実践内容

看護部主体で運営していた退院調整委員会を発展的に解消。平成 25 年 5 月に「医療介護連携推進委員会」を設立した。委員を多部署・多職種とすることで、退院支援にとどまらず、外来における介護との連携体制の構築、入院時からの介護との情報共有を目指した。月 1 回の委員会開催に加えて、課題別の随時のミーティングを行い、急性期病院の抱える介護との連携改善に向けて以下の 4 つの取り組みを行った。

実践効果

- 1) 佐久地域の医療・介護に関わる事業所・専門職種団体・行政の連絡先及び担当者一覧を院内 LAN に掲示。地域の医療・介護に関する社会資源を把握できる体制が構築できた。
- 2) 病院・訪問看護ステーション・介護事業所が算定する保険報酬について整理。医療・介護の連携に関する全体像を把握できるようになった。
- 3) 訪問看護指示書の医事課における進捗状況の一元管理、各科外来看護師を中心とした訪問看護との連絡体制を確立。訪問看護ステーションとの密な連携体制を構築した。
- 4) ケアマネジャーの問い合わせ窓口を地域連携室に一本化。病棟看護師との入院時カンファレンスを開始し、入院前の病状や ADL を把握した退院支援の体制を構築した。

考察

急性期病院における医療介護連携推進委員会の活動は有効であった。